



病理部と 遠隔診断について

今回は、病理部と病理部が行っている遠隔診断の取り組みについてご紹介します。

■説明は

徳島大学病院
病理部 部長

上原 久典
(うえはら ひさのり)



○ 徳島大学病院病理部

病理部は、直接患者さんに接する部署ではありません。しかし、患者さんから採取された組織、細胞の標本を顕微鏡で観察して診断し、各診療科での病気の診断や治療に大切な根拠を与える業務を行っています。

本院病理部では、異なる専門領域の病理診断医や細胞検査士等が業務を行っています。病理診断には以下のようなものがあります。

細胞診断 (年間約7,000件)

痰や尿等に含まれるがん細胞についての診断。

組織診断 (年間約9,000件)

● 生検組織診断(生検)

治療方針を決めるため、検査等の際に採った病変の一部を診断。

● 手術で摘出された臓器・組織の診断

病変の進行具合や全て摘出できたか、追加治療の有無、がんの場合は転移の有無等、その後の治療方針決定に役立つ情報を得るため行う診断。

● 手術中の迅速診断

手術中に採取された組織を診断。その結果は即時に執刀医に連絡され、手術方針、手術範囲を決定するために用いる。

○ 遠隔診断の取り組み

治療に大切な病理診断を行う病理医は、近年診断に求められる情報の増加に伴い、負担が増えています。しかし、病理医は全国で慢性的に不足しており、全国で約2,000名いとされる病理専門医は、徳島県では20名程度です。また、病理医の高齢化も進み、さらに減少することも予想され、病理医が不在や1人のみの病院をサポートし、不足する病理医の負担を軽減することが課題となっています。

本院病理部では、このような問題を解消するため、病理医が不足する県内3つの病院と遠隔診断ネットワークを構築しています。各病院には病理組織をデジタル画像として取り込む機器が整備され、本院においてはネットワークを通じて画像が確認でき、一次診断や診断のダブルチェック、意見交換が容易にできるようになっています。

本ネットワークは、現在年間3,000件以上の診断に利用され、ダブルチェックや意見交換による診断の精度向上や、診断を急ぐ際の対応、診断の代行が可能になりました。このことは地域の医療の質向上にも繋がると考えます。

病理診断の精度向上及び病理医負担軽減のため、さらに他地域も含めたネットワークの拡大を期待しています。

徳島県病理遠隔診断ネットワーク

